

日本家庭医療学会 2008年度第2回指導医養成ワークショップ
2008.10.25(土)

今、家庭医療指導医に 求められるものを探る

日本家庭医療学会 FD委員会
草場鉄周・小林裕幸

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

本日の流れ

- イントロダクション
- グループ分け／アイスブレイキング
- プレゼン／グループディスカッション① → 発表
- プレゼン／グループディスカッション② → 発表
- これからの学会FDの方向性について

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

このセッションの目標

- 全国から集まっていたいただいた家庭医療指導医の皆さんが現在抱えている問題や今後の教育に感じている不安点などを共有
- 上記の問題や不安を整理して分析
- 分析した問題点や不安に対する対策を検討
- 今後のFaculty Developmentのあり方を議論

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

今までの学会FD

- H18年度
 - 第1回: 医療後期研修プログラムにおける指導医とその養成
 - 第2回: 後期研修プログラム作りの実際
導入したい家庭医療教育モジュール
(家族志向ケア・地域包括ケア・シネマデュークレーション)
 - 第3回: 日本家庭医療学会の家庭医療後期研修プログラム認定について
導入したい家庭医療教育モジュール
(ビデオレビュー・ポートフォリオ・臨床倫理)
 - 第4回: ジェネラリズムの教育について

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

- H19年度
 - 第1回: 少子高齢化に適した家庭医療とは？
家庭医研修の目標 —教育的な視点から—
後期研修のための指導医養成
 - 第2回: どうやって私たちの外来診療教育を改善するのか？
将来の学会専門医認定試験へ向けて何を準備すべきか？
 - 第3回: 家庭医療における外来診療教育モデルを学ぶ
EBMの教育と研究

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

- H20年度
 - 第1回:
相手に伝わる発表をする!! プレゼンの3つのコツ
知っておきたいレジデンスー運営のポイント
診療の質改善 (Quality Improvement) の教育と実践
家庭医らしい医療機関の構築
—Personal Medical Home Project

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

今まで欠けていたもの

- 参加する指導医の先生方が学会のFDに期待するものは一体何なのか？
 - 特に参加者の立場に応じたニーズ評価
- 到達目標は？
- FDの一貫したカリキュラム
- 「学会指導医認定」との意義ある関連性

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

まずは

- 指導医として当学会の認定プログラムに参画する先生方の悩みや不安をきちんとくみ取り、真のニーズに迫る
- そのニーズに対する解決策を探り、これからの学会FD運営の基盤とする
- これからの時間はそのための4時間です
- 積極的な参加をどうかよろしくお願いします

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

グループ分け

- 小グループでのディスカッションを実りあるものにするためにグループ分けをします
- グループ1: プログラム責任者
- グループ2: 教育担当指導医(=カリキュラムなど管理)
- グループ3: 現場の家庭医療指導医(診療所)
- グループ4: 現場の家庭医療指導医(病院の総合内科)
- グループ5: 他の専門医(小児科・臓器別各科など)

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

自己紹介と・・・

- グループ内で自己紹介をお願いします
 - 所属とお立場、経歴
 - なぜこのWSに参加するに至ったのか？
 - お国自慢を一言！
- グループでディスカッションの司会役・記録・発表者を決めて下さい。
 - ディスカッションは2回おこないますので、うまく役割分担して下さい。
 - 発表はPowerPointを使っていただくと助かります。

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

学会後期研修医の現状

- 男女比: 5:2
- 既婚者が60%程度、そのうち半数が子供有り
- 40%は同期がおらず一人で孤独に研修
- 40%は身近に家庭医療の指導医がいないと認識
- 40%は「家庭医になれる自信」が「どちらでもない～あまりない～全くない」と不安を感じている

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

生の声

- 認定プログラムに対する問題点
 - 研修内容について評価が定まっていない
 - 同期が1人しかいない
 - 診療所に固定して研修している人の立ち位置が不明確
 - 各病院を回っている人には(統合する)指導医がいない
 - 戦力になってしまっただけで研修にならない
 - 施設間の交流がない
 - プログラムの中身で内容が選べない
 - ロールモデルがいない
 - ローテート研修先での専門医の理解が少ない

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

ディスカッション Part I

- さて、その手始めとして、グループ間で以下のテーマで議論を始めます。
- 1. プログラムの運営や研修医教育に取り組む中で、現在抱えている問題点、あるいは今後予想される問題への不安などを提示
- 2. その問題点や不安の原因が何なのかを検討
(対策はまた次の議論で考えますので、ここまでで)

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

議論の流れ

- 10分ぐらい 1人で振り返り検討してみてください
- 20分ぐらい 全員で内容を共有し、意見交換して下さい
- 10分ぐらい グループの議論の内容をまとめて発表出来る状態にして下さい
- 20分 グループからの発表時間、質疑応答

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

指導医の抱える問題点

- (発表内容を整理して提示)

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

指導医に求められる能力

- 2007年度第1回FDで岡田Drが紹介
- 4つの軸で求められる能力を定義
 - リーダーシップ
 - 管理
 - 教育
 - カリキュラム開発
 - 他に、研究、医学情報、ケアマネジメント、多文化主義も
- それぞれの詳細は資料1を参照
 - 膨大ですね...

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

リーダーシップ

- ビジョンを共有する
- 組織の理念と合致したプログラムの優先度や目標の設定について議論する
- 多様な観点を許容し、多様なメンバーとの協働を目指す
- チームを作り、チームと個人の成功のバランスをとっていく
- 明確な目標を確立し、情報を収集し、事実に重み付けをしながら、それに基づいて活動

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

管理業務

- システムの変革への取り組みと効果の測定
- 予算管理/資金調達
- 雇用管理(問題のある職員への対応)
- 自己改善と組織の発展を促す環境作り

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

教育技法

- ベッドサイド教育
- 外来教育
- 学習スタイルの同定と分析
- 問題のある学習者、及び、1対1や小グループの教育での問題行動に対するマネジメント
- 多様な評価方の実施(筆記、OSCE、自己評価、他者からの評価など)

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

カリキュラム開発

- ニーズアセスメント
- カリキュラム・プログラムの開発
- プログラム内容の決定
- 教材の作成
- 教育内容に対する評価
- カリキュラムの変革

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

立場による必要な能力の相違

- 管理専門の方(=院長、理事長?)
 - リーダーシップ、管理業務
- 研修責任者(=部長、科長?) **グループ1**
 - リーダーシップ、管理業務、教育技法、カリキュラム作成
- 教育担当指導医 **グループ2**
 - 教育技法、カリキュラム作成
- 地域の現場指導医 **グループ3-5**
 - 教育技法

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

ディスカッション Part II

- さて、そうした指導医養成のあり方を踏まえて次の議論に進みます。
1. 先ほどのグループディスカッション I で集約された問題点を解決するために、すで実践している実際の取り組みはありますか？ あればぜひご紹介下さい。
 2. もし、なければ、どのように解決していくべきかを議論して下さい。枠組みとして、上記の指導医養成の資料を参考にして下さい。

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

議論の流れ

- 10分ぐらい 1人で振り返り検討してみてください
- 20分ぐらい 全員で内容を共有し、意見交換して下さい
- 10分ぐらい グループの議論の内容をまとめて発表出来る状態にして下さい
- 20分 グループからの発表時間、質疑応答

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

問題点への解決策

- (発表内容を整理して提示)

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

こうした声に応えるために

- 学会として
 - 各プログラムのカリキュラムや研修内容をpeer reviewし質の向上に努め続ける
 - 到達目標と連動した専門医認定試験を実施して、適正な評価を行うと同時に専門医の質を保証
- 各プログラムとして
 - プログラムが抱える問題点を分析し、指導医の間で共有
 - 他の施設やFDで得た知識に基づいて改善活動
 - 研修医が安心して、実力と自信をつけることができる研修へ

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

学会FDの方向性

- 内容
 - 家庭医療のコアとなる概念は？
 - 教育技法やカリキュラムは？
 - リーダーシップやプログラム管理は？
 - 対象者によって内容を変えていく必要性も
- 方法
 - ワークショップ(中央型、地方開催型など)
 - 遠隔教育(MLやHP、掲示板、ポートフォリオなどの利用)
 - 教材による自己学習
 - 頻度と義務化の可能性

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

- 評価
 - ポートフォリオ
 - 訪問調査
 - Peer review(近隣のプログラムなどが相互評価)
 - 育成された研修医への評価
- 大きな流れ
 - 米国のSTFM(Society of Teachers of Family Medicine)のよ
うな組織へと発展させ活動を活発に
 - 他の専門医学会以上の質の向上を

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25

お疲れ様でした
今回の議論を活かして、実りあ
るFDシステムを構築します

日本家庭医療学会

日本家庭医療学会2008FD2

08.10.25